

# 新計画における評価指標(案)

資料1-2

基本目標1 全ての子どもの育ちを支える環境づくり							
施策の方向 1 全ての子どもが幼児期に教育・保育を受けられる環境づくり							
推進施策 ①幼児期の教育・保育事業の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
希望した時期に保育サービスを利用できる	就学前 78.4	就学前 85.0	就学前 72.2	就学前 90.0	就学前 30.6	次世代後期計画では、24年度までに1%ほど高め、26年度までには2%以上高めて85%とする目標を設定しましたが、前回の現状値を下回る結果となりました。希望した時に保育サービスが利用できることは、仕事と子育ての両立を支援する環境づくりの面でも重要であるため、本計画では90%を目標として、幼児期の教育・保育事業へのより一層の取り組みにより目標達成を目指します。	2-1
施策の方向 2 地域における子ども・子育て支援の充実							
推進施策 ①地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実 ②子育てに関する相談、情報提供の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
地域において多様な子育て支援が充実している (旧：地域で子育てをする環境が整備されている)	就学前 33.4 就学 33.8	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 40.3 就学 32.7	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 39.8 就学 40.1	就学前では数値は向上しましたが、就学後ではやや下がる結果となりました。これからを期待する意見が多いため、就学前、就学後ともに60%に引き上げます。また、指標名を地域・子ども子育て支援事業に合わせた名称に修正します。	3-1
子育ての相談窓口が充実している	就学前 53.8 就学 43.1	就学前 60.0 就学 50.0	就学前 44.3 就学 34.6	就学前 65.0 就学 65.0	就学前 36.0 就学 40.7	次世代後期計画では、現状値より1割ほど高めていく目標設定としましたが、結果は当時の現状値を下回るものとなりました。本計画では、市民にとって分かりやすい相談及び情報提供の体制を整備することとし、また、特に就学児童を持つ親について今後の要望も高いことから、26年度目標値から上乗せし、就学前、就学後いずれも65%を目標とします。	2-1
施策の方向 3 子どもの人権を尊重した環境づくり							
推進施策 ①子どもの権利に関する啓発活動の充実 ②児童虐待防止体制の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
児童虐待の早期発見や防止等子どもの人権を守る体制が整っている	就学前 20.3 就学 27.4	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 27.5 就学 26.9	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 51.1 就学 47.5	次世代後期計画では、現状値に対し、子どもの命を守ることの重要性から、毎年5%高める目標設定をベースに、策定委員会の意見により50%としましたが、目標を達成することはできませんでした。しかし、すべての子どもの健やかな育ちを等しく保障することを目指す上で、児童虐待の早期発見や防止、子どもの人権を守る体制を整備することは大変重要なことであり、今後の要望も極めて高いことから、26年度目標から更に10%上乗せし、60%を目標として達成に努めます。	1-5
基本目標2 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり							
施策の方向 1 家庭・地域における子どもの人間形成							
推進施策 ①家庭や地域における教育力の向上 ②多様な体験活動の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
親子・子ども同士の交流の場や多様な体験の場が充実している (旧：親子・子ども同士の交流の場や自然の中での多様な体験の場が充実している)	就学前 51.2 就学 52.4	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 57.9 就学 52.7	就学前 70.0 就学 60.0	就学前 25.8 就学 27.0	地域の中で親子、子ども同士の交流や、多様な体験活動を進めることは、子どもの豊かな感性や情操を高め、子どもの健全な育ちを促す上で大切なことです。次世代後期計画では、現状値では2人に1人の割合で充実していると感じていることに対し、10%上乗せして60%の目標設定としましたが、目標値には到達しませんでした。本計画では、数値に伸びの見られた就学前児童については10%上乗せして70%とし、就学児については引き続き前回の60%を目標とし、施策を推進していきます。	1-1
施策の方向 2 学校を通じた子どもの人間形成							
推進施策 ①個性と創造性を育む学校教育の充実 ②教育体制の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
子どもの教育環境が充実している	就学前 48.1 就学 50.9	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 60.7 就学 58.9	就学 70.0	就学前 24.2 就学 22.6	次世代後期計画では、現状値でおおむね2人に1人の割合で充実していると感じていることに対し、教科書学習だけでなく、多感な時期に合わせた体験活動を進めることで教育環境の充実を図るとして、10%上乗せして60%を目標値としました。本計画では、推進施策における事業が主に就学児童を対象したものであるため、就学児のみについて指標を掲げることとし、前回から10%上乗せして70%を目標とします。	1-2
施策の方向 3 子どもの主体的な活動の尊重							
推進施策 ①遊び場、施設等の充実 ②子どもの年齢に応じた居場所づくり ③青少年への活動支援							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
子どもが気軽に利用できる施設や場所が整っている	就学前 49.3 就学 42.7	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 59.6 就学 49.0	就学前 70.0 就学 60.0	就学前 25.8 就学 29.9	地域で子ども同士や親子で気軽に利用できる施設の整備は、行政に求められるものです。次世代後期計画では、充実していると感じる割合が概ね4割以上であるのに対し、今後も施設整備を進めていくことで、目標を60%としました。本計画でも引き続き整備を進め、ほぼ数値目標に近い結果となった就学前児童については10%上乗せして70%を目標とします。また、目標値に達しなかった就学児童については目標を60%で継続し、達成に努めます。	1-3
施策の方向 4 次代の親としての子どもの人間形成							
推進施策 ①親となるための教育の充実 ②思春期対策の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
子どもが生命の大切さや性についての正しい知識を学ぶ機会がある	就学前 14.9 就学 21.2	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 26.6 就学 30.9	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 51.5 就学 44.2	次世代後期計画では、2割前後であった現状値に対し、今後の要望は非常に高いことから、2倍程度の目標設定に、更に策定委員会での意見を踏まえて50%としました。しかし、就学前、就学児童ともに前回より伸びは見られたものの目標値には依然として大きく開きがありました。次代の親となる子どもたちが生命の大切さや性についての正しい知識を学ぶ機会があることは、大切なことであり、今後の要望も継続して高いことから、本計画においても前回同様50%を目標とし、達成を目指します。	1-4
基本目標3 子育て家庭を支える環境づくり							
施策の方向 1 安心して子育てできる環境づくり							
推進施策 ①安全で、安心して生活できる環境づくり ②地域ぐるみで子どもを守る環境づくり ③子どもと安心して出かけられるまちの整備 ④子育てに伴う経済的負担の軽減 ⑤防災及び災害時の子育て支援の充実							
評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
子どもが安心・安全で暮らせる出かけられる環境が整っている	就学前 26.5 就学 29.1	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 41.8 就学 36.3	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 39.9 就学 40.2	子どもたちが安心・安全に暮らせる出かけられるよう、環境の整備を図ることと交通安全の啓発が必要です。次世代後期計画では、3割弱の現状値に対し、策定委員会の意見により50%としました。今回、目標値には達しなかったものの、数字は伸びています。本計画ではこれまでの取組を今後も継続的に実施することとし、前回同様50%の目標とします。	2-2
子どもに係る事故や犯罪の被害に遭わないか心配であると感じる	就学前 52.1 就学 66.3	就学前 40.0 就学 50.0	就学前 43.6 就学 56.8	就学前 35.0 就学 45.0	-	子どもが事故や犯罪に巻き込まれることのないよう、道路や公園などの環境面の整備や有害環境から守ることが大切です。次世代後期計画では、市民が感じる不安の割合を現況から10%ほど低い目標設定としました。今回、目標値には達しなかったものの不安を覚える保護者の割合は減少していますが、本計画ではさらに目標値を5%下げ、就学前35%、就学児45%とし、これまでの取組を今後も継続的に実施しながら、目標達成に努めます。	2-2

基本目標3 子育て家庭を支える環境づくり

施策の方向 2 安心して子育てできる環境づくり

推進施策 ①安全で、安心して生活できる環境づくり ②地域ぐるみで子どもを守る環境づくり ③子どもと安心して出かけられるまちの整備 ④子育てに伴う経済的負担の軽減 ⑤防災及び災害時の子育て支援の充実

評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
災害時の子育て支援に関する取り組みが充実している【新規】→「災害時」を修正予定			就学前 16.5 就学後 16.3	就学前 50.0 就学後 50.0	就学前 57.4 就学 53.0	南海トラフ巨大地震の発生が危惧されるなか、災害が発生した場合や発生後の子育て支援のあり方について準備・検討する必要があります。今回の調査では、災害時の子育て支援の取り組みが充実していると答えた割合は就学前後ともに20%を割っていますが、今後の要望は非常に高くなっています。本計画では、災害時の子育て支援を新たな取組項目とし、50%を目標とします。	
子育て家庭への経済的援助が充実している	就学前 25.5 就学 30.6	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 33.8 就学 32.9	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 44.7 就学 40.9	児童手当や子ども医療費助成などの経済的援助をこれまで進めてきていますが、子育て家庭からはその要望が非常に高く、次世代後期計画では現状値を5割程度高めた目標設定としていましたが、達成することができませんでした。大変厳しい財政状況ですが、国の動向を踏まえながら事業を実施することとし、本計画においても目標値50%で継続することとします。	2-1

施策の方向 2 社会的支援を必要としている家庭への対策の充実

推進施策 ①ひとり親家庭における子育て及び母親等の自立への支援 ②障害がある児童及び発達障害児の児童の子育てへの支援 ③外国人家庭における子育てへの支援 ④子どもの貧困への支援

評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
ひとり親家庭および障害がある児童への支援が充実している	就学前 29.4 就学 33.0	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 42.2 就学 37.9	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 36.4 就学 40.9	ひとり親家庭については、就労等厳しい環境にあるため、経済的な面での支援のほか、自立に向けた就労支援を進めていくことが大切です。また、障害のある児童をもつ家庭については、保護者の不安の軽減と適切な支援の開始のため、早期発見と早期療育が求められます。次世代後期計画の目標値に対し、就学前児童については目標値に達しなかったものの数字の伸びは見られましたが、就学児についてはほぼ変わらない結果となりました。本計画では、ひとり親家庭及び障害がある児童の子育て支援に対する取り組みを進めることとし、前回目標準から更に10%上乗せして目標値を60%とし、目標達成に努めます。	2-3
外国人家庭への子育て支援が充実している	就学前 32.2 就学 36.1	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 43.1 就学 41.9	就学前 50.0 就学 50.0	就学前 31.7 就学 31.0	本市は外国籍市民が多く在住しており、これまでポルトガル語や英語による子育て支援情報の提供や、外国人の子どものアフタースクール事業など、乳幼児から就学児に至るまでの一貫した支援に取り組んできましたが、目標値には達しませんでした。本計画では、前回目標準50%を目標とし、これまでの取組を今後も継続し、引き続き目標達成を目指します。	2-3

施策の方向 3 健康で子育てできる支援の充実

推進施策 ①妊娠・出産・育児の支援 ②親子の健康づくりの増進

評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
妊娠から出産、育児まで親子への健康管理が充実している	就学前 49.3 就学 52.2	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 67.6 就学 62.7	就学前 75.0 就学 75.0	就学前 17.0 就学 18.5	妊娠から出産、育児の切れ目ない支援は、子どもの健やかな育ちを保障する上で大変重要なものです。今回、数値目標は達成されましたが、子どもを産み・育てやすい環境整備が今後の少子化対策の上でも大変重要であると考えますので、本計画においては現状値に約10%を上乗せし、75%を目標とします。	2-4

基本目標4 子育てを社会全体で担う意識と環境づくり

施策の方向 1 子育てを支え応援する社会づくり

推進施策 ①子育てを社会で支える意識の啓発 ②地域で子どもを育てる体制の整備 ③市民協働による子育て支援の推進

評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
子育てが家族や地域の人に支えられている	就学前 83.7 就学 86.1	就学前 87.0 就学 90.0	就学前 88.2 就学 89.1	就学前 90.0 就学 90.0	就学前 25.4 就学 18.9	次世代後期計画では、普段から「子どもを預かってもらえる人がいずれもない」という割合の裏返しを支えられている割合と考え、80%以上が支えられていると感じている現況に対し、毎年1%高めることを目標設定としました。今回、目標値にはわずかに届きませんでした。今後、社会全体で子育て家庭を支える意識の啓発に取り組み、就学前後ともに90%を目標とします。	3-1
子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者	就学前 92.2 就学 90.3	就学前 85.0 就学 85.0	就学前 91.0 就学 89.6	就学前 80.0 就学 80.0	-	子育てに関して多くの方は何らかの不安を抱えています。子育てを応援する場の整備や仲間づくりなどの交流事業を増やし、また気軽に相談できる場所の確保が求められます。本計画では、相談窓口の充実などにより引き続き不安感や負担感が減らせるよう努力することとし、80%を目標とします。	3-1

施策の方向 2 仕事と家庭の両立ができる環境づくり

推進施策① 仕事と家庭の両立支援 ②企業等による子育て支援の推進

評価指標	20年度 現状値	平成26年度 目標値	平成25年度 調査結果	平成31年度 目標値	現在とこれか らのギャップ	目標値設定の考え方	前回の施 策の方向
女性が希望通りに出産後も仕事を辞めずに働けることができた	全体 23.7	全体 35.0	全体 23.6	全体 35.0	就学前 53.2 就学 48.4	女性が希望通り出産後も仕事を辞めずに働けることができることは多くの方が希望しています。次世代後期計画では改善は見られませんでした。本計画においても35%の目標値を継続し、引き続き努力することとします。	3-2
地域の子育て家庭への支援に積極的な企業が多い (旧：子育て支援に積極的な企業が多い)	就学前 9.0 就学 10.9	就学前 20.0 就学 20.0	就学前 15.1 就学 12.2	就学前 35.0 就学 35.0	就学前 58.2 就学 54.9	ニーズが高い項目ですが次世代後期計画ではやや改善にとどまりました。企業に対してすべて協力を求めることは課題も多いため、25年度調査結果から20%程度高める目標設定とします。また、企業が地域や利用者に対する子育て支援であることを分かりやすくするため、指標の表現を改めます。	3-2
子どもと一緒に時間を十分に取れると考える保護者	就学前 父親:31.3 母親:70.2 就学 父親:30.0 母親:60.2	就学前 父親:50.0 母親:80.0 就学 父親:50.0 母親:70.0	就学前 父親:24.0 母親:60.6 就学 父親:28.5 母親:55.2	就学前 父親:50.0 母親:80.0 就学 父親:50.0 母親:70.0	-	全ての項目で、21年度と比較して下がる結果で、特に就学前の父親が低くなっています。親子で子どもと接する時間は大切ですので、本計画においても前回の目標値を引き継ぎます。	3-2

【削除項目】

保育所での多様な保育サービスが充実している	就学前 52.4 就学 46.0	就学前 60.0 就学 60.0	就学前 54.9 就学 52.0	項目削除	就学前 27.8 就学 27.1	施策の方向2-①の1つ目の評価指標において、保育所も含めた多様な保育サービスなど、地域子ども・子育て支援事業に関する評価指標を設けるため、削除します。	2-1
子どものための医療施設が充実している	就学前 59.9 就学 55.4	就学前 70.0 就学 70.0	就学前 73.4 就学 65.4	項目削除	就学前 13.3 就学 17.7	保健所・保健センターにおける小児医療施設の集約により、医療施設の充実が図られ、就学前児童については目標を達成しました。就学児童については目標値にはわずかに達しませんでした。現在とこれからのギャップも低く、次世代計画における集中的な取り組みとしての役割は果たしたと考えられますので、本計画においては推進施策及び評価指標を削除します。	2-4
同世代の子を持つ親同士が交流する場が整っている	就学前 48.0 就学 37.4	就学前 60.0 就学 50.0	就学前 45.4 就学 32.4	項目削除	就学前 34.6 就学 38.7	指標の対象事業を地域子ども・子育て支援事業に整理し、それに関する指標を基本目標1-2で掲げるため削除	3-1